

4章 セミナー実施報告

4章 セミナー実施報告

4-1 バレエ団運営スタッフ向けセミナー

● 背景・概要

日本のバレエ団は新型コロナウイルスの影響により大きな打撃を受けており、その運営にはこれまで以上の工夫や改善が求められている。

バレエ団運営スタッフは、バレエ以外の団体運営や企業経営からも学び視野を広げる必要があり、本事業では、他分野の文化芸術団体や、ファンドレイジングに関わる分野から講師を招き、バレエ団運営スタッフ向けのセミナーを実施している。

本年度は、多くの外部スタッフ協力を得て舞台をつくりあげる総合芸術であり、バレエと共通点の多いオペラの分野より講師を招いて、運営スタッフ向けのセミナーを実施した。

● 実施概要

日時：2021年12月3日（金）15:00～17:00

場所：芸能花伝舎 A棟1階 A3会議室（東京都新宿区西新宿6丁目12番30号）
およびオンライン（Zoom）

講師：山口 毅 氏

公益財団法人東京二期会 常務理事・事務局長 兼企画制作部及び養成部・部長
1997年より東京二期会にてオペラ制作に従事。新国立劇場との共催『アラベツラ』等を手がけた後、2002年にモネ劇場との提携公演『ニュルンベルクのマイスタージンガー』を担当。以後海外との共同プロダクション全てにも関わる。2007年びわ湖ホール、神奈川県民ホール、東京二期会との共同制作公演『ばらの騎士』を実現、以後国内大規模オペラ共同制作プロジェクトを推進する。2018年4月マドリッドで開催された第1回ワールド・オペラ・フォーラムより招待を受け、開幕のプレゼンテーションを行った。

<主なセミナー内容>

- 日本のオペラ業界および東京二期会の概要、特徴
- コロナ禍におけるオペラ分野の状況や工夫（招聘、海外との協力関係を含む）
- オペラ分野におけるファンドレイジング・マーケティングについて
- 若い観客を増やすための工夫について（上演作品の選定、チケット価格、広報等）
- 人材育成について（新進芸術家の育成、運営・制作スタッフの体制および人材育成）
- 劇場との関係について（オペラの共同制作、アートキャラバン事業等）
- 今後の業界発展に向けた意見交換 等

<参加団体>（バレエ団名五十音順）

日本バレエ団連盟会員団体である下記の6団体より計12名の運営スタッフが参加した。

- 小林紀子バレエ・シアター：2名
- 貞松・浜田バレエ団：2名（オンライン）
- スターダンサーズ・バレエ団：1名（オンライン）
- 東京バレエ団：2名（オンライン）
- 東京シティ・バレエ団：4名（オンライン）
- 牧阿佐美バレエ団：1名（オンライン）

<セミナーの様子>



<参加者の声>

- オペラとバレエでは共通点が多く、大変参考になった。若い観客を増やすための工夫、地域の観客拡大に向けた取り組みなど、共通する悩みも多い。今後も業界発展に向けた意見交換や、新たな取り組みに向けた連携ができればよいと思う。
- セミナーで聞いたことをすぐにはバレエ団運営に活かせない場合も多いが、バレエ以外の分野の話の聞く機会があると視野が広がり、大変有意義である。今後もぜひ他分野から講師を招いてのセミナーを継続してもらいたい。

4-2 バレエダンサー向けセミナー

● 背景・概要

バレエ団のダンサーには、小さな頃からバレエの練習に打ち込む生活を続け、社会経験の少ないままプロとしての活動するようになった人もしばしば見受けられるが、若いうちからバレエ以外のことにも視野を広げ、社会的知識や自己メンテナンス力を身につけることも大切である。本事業では、バレエの技術面や芸術面にとどまらないダンサー育成の観点から、バレエダンサー向けのセミナーを実施している。

本年度のセミナーでは、ダンサーたちが様々な方と関わり、バレエの魅力の発信等を行っていく上で、事前知識として理解度の向上を図ることが重要な2つのテーマを取り上げた。

ダンサーたちが、舞台芸術を支えて下さる方々や、SNSの先にいる多くの方々に思いを巡らせ、相手の立場に想像力を働かせて適切な行動をとることは、バレエの観客拡大や日本バレエ界の発展を考える上でも重要である。

● 実施概要

- ・日 時：2022年3月9日（水）14：00～15：30
- ・場 所：芸能花伝舎 A棟1階 A4会議室（東京都新宿区西新宿6丁目12番30号）
およびオンライン（Zoom）
- ・対 象：日本バレエ団連盟の会員団体のバレエ団に所属するバレエダンサー
および、指導者・運営スタッフ

講師・テーマ：

14：00～15：00 『舞台芸術への助成・支援について』

講 師：公益財団法人セゾン文化財団 理事長 片山 正夫氏

主な内容：誰が芸術活動を支援しているのか？、芸術活動に対する公的助成について、文化関係予算の推移、文化予算・個人寄付の国際比較、文化庁の主な民間支援プログラム、代表的な基金について、アーツカウンシルとは、なぜ税金が芸術活動に使われるのか？、民間支援の状況、企業と芸術活動、助成財団 等

15：00～15：30 『SNS利用時の注意点』 ～ダンサーのインターネットリテラシー向上に向けて～

講 師：一般社団法人コンピュータソフトウェア著作権協会 太田 輝仁氏

主な内容：トラブルを回避するために必要な心構え、著作権、肖像権とパブリシティ権、個人情報、秘密情報、差別的表現、犯罪となる表現、情報流出に関する注意、SNSとの付き合い方について 等

<講師紹介>

片山 正夫 (かたやま まさお・公益財団法人セゾン文化財団 理事長)

1958年兵庫県生まれ。一橋大学法学部卒。セゾン文化財団の設立時(1987年)より芸術活動支援に携わる。1994年～1995年ジョーンズホプキンス大学政策研究所シニア・フェローとして助成プログラムの評価を研究。現在、(公財)公益法人協会理事、(公財)助成財団センター理事、(公財)ジョイセフ理事、(学)国立学園監事等を務める。アーツカウンシル東京カウンシルボード議長。明治学院大学非常勤講師。



著書に「セゾン文化財団の挑戦」共著に「民間助成イノベーション」「プログラム・オフィサー」「NPO基礎講座」等。

※公益財団法人 セゾン文化財団について (<https://www.saison.or.jp/>)

日本の現代演劇・舞踊の振興、およびその国際交流の促進に寄与するため、助成活動を行っている。

太田 輝仁 (おおたてるひと・一般社団法人コンピュータソフトウェア著作権協会)

一般社団法人コンピュータソフトウェア著作権協会(ACCS)事務局広報担当。産業能率大学コンテンツビジネス研究所 客員研究員。企業、教育現場、地方自治体にて、著作権およびソフトウェア管理に関する講演を多数担当。

※一般社団法人コンピュータソフトウェア著作権協会(ACCS)について (<https://www2.accsjp.or.jp/>)

デジタル著作物の権利保護や著作権や情報モラルの普及活動を通じて、コンピュータ社会における文化の発展に寄与することを目的として活動している団体。自社で著作権等を持つゲームソフトメーカービジネスソフトウェアメーカー、出版社、音楽映像関連企業などが会員として活動を支えている。

<参加団体> (バレエ団名五十音順)

日本バレエ団連盟会員団体である下記の5団体より計28名が参加した。

- ・井上バレエ団：ダンサー10名、指導者1名、運営スタッフ2名(会議室)
- ・小林紀子バレエ・シアター：ダンサー2名、運営スタッフ1名(オンライン)
- ・スターダンサーズ・バレエ団：運営スタッフ1名
- ・東京バレエ団：運営スタッフ3名(オンライン)
- ・牧阿佐美バレエ団：ダンサー5名、指導者2名、事務局1名(オンライン)

※上記の他、後日アーカイブ配信にて日本バレエ団連盟会員団体のダンサーが視聴予定。

〈2022年3月16日時点〉

<セミナーの様子>



<参加者の声>

～舞台芸術への助成・支援について～

- さまざまな支援をいただきながら芸術文化が成り立っているのだということが分かった。(ダンサー)
- 助成や支援について、ダンサー個人からは少し遠い気がして今まであまり気にしていなかったが、仕組みや現状を知ることで、私たちも知っておかなければならないことが沢山あるのだと意識が変わった。また、芸術の持つ力について、様々な角度からの考え方を知ることができたことも心に残った。(ダンサー)
- 企業による支援では、形に残る美術分野への支援は多い一方で、バレエ含む舞台芸術への支援の事例は少なく…具体的にどんな難しさがあるのか、いちダンサーとしてできることはどんなことがあるのか、考えるきっかけとなった。(ダンサー)
- 日本の文化、芸術への助成が他の国と比べて少ないことを改めて認識した。バレエに対しての理解を深めてもらうようにしなくてはと思った。(ダンサー)
- もっとお話を聴きたかった。舞踊の価値をあげて行きたいと思った。(ダンサー)
- 我が国や各国の助成の実態等について、系統だって改めて学ぶことができた。芸術団体として、メディア等から質問を受けるケースもあり、この機会に学ぶことができ大変有益だった。(バレエ団運営スタッフ)

～SNS利用時の注意点について～

- SNS発信が活発化しているので、所属ダンサーに注意を促したいと思った。写真の投稿などには最新の注意を払わないといけないと思った。(バレエ団運営スタッフ)
- SNSは知らずに良かれと思って投稿しているケースがあり、バレエ団単位で伝えることがダンサーを守ることになると思った。(バレエ団運営スタッフ)
- SNS利用時の注意点や著作権・肖像権について、もっと広く知られてほしい。バレエ団では著作権のある作品を正当な手続きをして上演しているが、小規模な発表会等では著作権や肖像権について意識の薄いケースがあると思う。(バレエ団指導者)

- トラブルの事例を聞き、軽い気持ちで余計なことを発信しないように気を付けようと思った。(ダンサー)
- これまで私は色々考えすぎてSNSに投稿できないタイプだったけれど、SNSが有効なツールであることは間違いないので、ただ恐れるだけではなく注意点を正しく理解して、いい塩梅で活用していきたいと思った。(ダンサー)
- 海外のバレエ団では積極的にダンサーがSNSに舞台やリハーサルの動画を載せているのをよく見かける。日本で同じことをするのがよいとは限らないかもしれないが、ダンサー一人ひとりの発信が観客拡大に繋がるのであれば、もっと有効に個人のアカウントも使った方がよいかもしれないし、発信内容についてバレエ団の確認・許可が必要であれば、SNS広告や宣伝をするチームを設ける等、体制を整えることも必要ではないかと思った。(ダンサー)